

# 競争力を高める社会資本の整備

## 1. はじめに～競争力を高める社会資本の整備とは～

### (1) 国・地域の発展と社会資本整備

よく知られているようにわが国の戦後の成長は社会資本整備が大きく寄与している。その時点では必ずしも十分な財源が確保できなかったことから幹線的な交通施設や大型ダム、発電所などの建設に国際機関の融資を得ている。また国内の各地域の発展も各々の地域で整備された社会資本の貢献が大きい。

### (2) 競争力と社会資本

しかし社会資本の整備が進み、また成長が低下するにつれて何のために社会資本を整備するか基本的な考え方や戦略がやや曖昧になってきたのではないかと考えられる。一方で国や各地域は世界の中で伍していくためには常に競争力を確保していくことが求められることも再認識してきた。多くの国でこのことが認識され、取り組みがなされている。

ここで考える競争力のもととなる社会資本であるが、国や地域あるいは時代によって異なる。現在のわが国においては第一に国際・幹線交通ネットワーク等があげられるが、個性ある魅力的で快適な生活を営める地域を形成するための社会資本もまた競争力のための社会資本といえよう。多様な産業と同時に訪れたいくなり住みたいになることも国・地域の競争力の要素と考えられる。本稿では、国際・幹線交通ネットワークを念頭においた競争力を高めるための社会資本について海外の事例と社会資本のさらなる整備と活用のために考えるべきことの2点について述べる。

## 2. 海外の事例

海外においても競争力向上のために社会資本に関してさまざまな取り組みがなされている。EUにおける国を越えた交通ネットワークや周辺の国々の基幹的な港湾、空港の整備やアジアハイウェイなど、さらにメコン地域（大メコン圏：GMS）での取り組みも大きな効果をあげている。国を越えたネットワークが各国を世界と結び付け競争しつつも連携した発展を促している。

### (1) 基幹的な港湾・空港

世界の主要コンテナ港湾をみるとアジアの港湾がその多くを占めている。例えばシンガポール、香港を含む中国本土、台湾、韓国などの港湾があげられる。これらの港湾の多くは背後の貨物の取扱のみならずハブ港として国際物流の中枢を担っている。さらに東南アジアの諸港もその整備の進展により国際物流ネットワークの一翼を担いその国や地域の発展を支えている。空港においても同様であるが、これら港湾・空港を単なる施設というよりむしろ国や地域の基幹的な産業として捉えようとしている点に注目される。

### (2) アジアハイウェイとアジアレイルウェイ

国連などの主導によりアジア地域全域の道路、鉄道ネットワークの形成が進められている。国境を越える交通が確保されることにより競争が激化する局面もあるが旅客、貨物両面の輸送が増加し大きな経済効果をもたらしている。特にASEANなど貿易の自由化の進展とあわせ各国とも競争力が高まり発展している。

東洋大学 国際地域学部 国際地域学科 教授

かね こ  
金子

あきら  
彰



### (3) GMS

わが国も協力する形でGMS構想が進められている。環境、交通、エネルギー等さまざまな分野があるがメコン流域諸国における相互連携が進んでいる。ベトナム-タイ-ミャンマーを結ぶ東西回廊、タイ-カンボジア-ベトナムを結ぶ第2東西回廊などの整備が進んでいる。これらにより従来発展から取り残されていた地域における発展が著しい。例えばこれまでわが国企業の進出がわずかであったカンボジアにおいて2011年にはわが国企業の進出が激増していること、カンボジアへのベトナム人観光客の増加などがみられる。

このように特にアジア諸国においては、社会資本整備による成長が進んでいる。これらの動きに対してわが国は技術協力により大きく貢献しているがさらに連携を強めることによりわが国自体の成長力強化につながると考えられる。水関連では自治体もこれらの国々に技術協力だけではなくビジネスとして参入しようとしている。これらも注目すべき動きであろう。同時にわが国の競争力強化のために学ぶべき点が少なくないと考えられる。

### 3. 社会資本のさらなる整備と活用のために

これらの国際・幹線交通ネットワークを形成する社会資本の整備を行うにあたっては特に財源の確保が課題となるとともに環境や地域社会との調和が重要である。さらによく指摘されることであるが使いやすさが鍵となる。

わが国の社会資本整備は財源の制約等もあり減少傾向にある。これを補うとともに民間の力を活

用するために近年さまざまな整備手法が導入されてきた。交通だけ捉えても鉄道を皮切りに空港、港湾、道路に「民営化」といわれる手法が導入されている。その成果は一般の人々に認識されるようなものもある。ただし、忘れてはいけないのはこれらは社会資本であり公共性を有していること、したがって公共部門の果たすべき役割は依然として大きいことである。公共による整備、管理を行うものにとどまらず民営化された個々の企業を越えた基本的な計画をつくること、整備や活用や財源確保のための仕組みを整備することや、ユーザーの利便を促進するための支援を行うこと等適切な公共の仕組みをさらに整備することが求められている。

また、社会資本とは別の言葉でいえば「公共サービス」の提供である。交通でいえば「交通」というサービスの提供である。整備も含め直接のユーザーのみならず国・地域社会に対するサービスの提供の観点から現在の社会資本のあり方を再度評価し改善することにより社会資本の利便性の向上が進むものと考えられる。このことは民営化された社会資本のみならず公共が管理、運営する社会資本についても重要であり競争力の向上に寄与するものと考えられる。

### 4. おわりに

海外の取り組みを学ぶとともに「サービス」という言葉を再認識することによりわが国でもさらに競争力を高める社会資本の整備が進むものと考えられる。会員諸氏への社会の期待は大きい。